

日本原子力学会・炉物理連絡会会報

# 炉物理の研究

(第 10 号)

1970年12月

日本原子力学会

炉物理連絡会

# 目次

アンケート	1
Ⅰ. 会誌「炉物理の研究」について	1
Ⅱ. 夏の学校について	2
Ⅲ. 学会誌編集委員会より	2
アンケート回答用紙	5
第6回炉物理連絡会議事録	7
総合研究幹事会(第1回)議事録より	8
会員名簿	10





順位	
	1. 論文(研究論文, 技術報告, ショート・ト)
	2. 解説(資料, 特集, 連載講座)
	3. トピック紹介(私のノートから, 談話室)
	4. その他(新刊紹介, 会報, 巻頭言)

御意見( )

(4)内容の難易, 親しみやすさについて。(該当欄にV印)

①難易・レベル。(横の分類は(3)と同じ)

	学会誌(和文)				ジャーナル 論文
	論文	解説	トピック紹介	その他	
難かすぎる					
現状でよい					
易すぎる					

御意見( )

②親しみやすさ, 表現。(横の分類は(3)と同じ)

	解説	トピック紹介	その他
{親しにくい 表現がかたい}			
現状でよい			
その他			

御意見( )

(5)頁数(該当欄にV印)(横の論文は(3)と同じ。カドシ論文とショート互區別別)

	学会誌(和文)					ジャーナル	
	論文	ショート	解説	トピック紹介	その他	論文	ショート
長すぎる							
現状でよい							
短すぎる							

御意見( )

(6)会議に関し, 現状で一番よいと思う桌と, 一番悪いと思う桌をそれぞれ一つづつあげて下さい。

(7)その他, 会誌の向上に関し, 新しい記事の企画など, 何でも結構ですから, 御意見をお書き下さい。

かと思は

①論文の投稿に関して

②頁数に関して(会費とのバランス)

- ③ 学会誌の記事の改廃について (Kとえば, Aをやめてもっと平易な解説記事を入れるとか, 学会誌には論文をのせない (物理学会誌では“最近の研究から” Fなどで吸収しているふうである。) とかについて)
- ④ ショート・ノート の性格および頁数の制限に関して.

### アンケート解答用紙

#### I. 「炉物理の研究」について

- (1) イ. □. 御意見 ( )
- (2) イ. □. ハ. ニ. ホ.  
その他必要と思われる記事 ( )  
御意見 ( )
- (3) イ. % □. % 御意見 ( )

#### II. 夏の学校について

- (1) イ. □. ハ.
- (2)
- (3) イ. □. ハ. ニ.
- (4) イ. □.
- (5) イ. □. ハ. その他の御希望 ( )
- (6)
- (7) イ. □.
- (8)
- (9)

#### III. 学会誌改善のためのアンケート

- (1) 1. 2. 3. 4.

(2)

	学会誌	添付
1.		
2.		
3.		

(3)

	順位	御意見
1.		( )
2.		
3.		
4.		

(4)①

	学会誌(和文)				英紙 論文
	論文	解説	トピック紹介	その他	
難しすぎる					
現状が良い					
易しすぎる					

御意見( )

②

	解説	トピック紹介	その他
親しみにくい 表現が多い			
現状が良い			
その他			

御意見( )

(5)

	学会誌(和文)					英紙	
	論文	エッセイ	解説	トピック紹介	その他	論文	エッセイ
長すぎる							
現状が良い							
短すぎる							

御意見( )

(6)

(7)

キリトリせん



才六回炉物理連絡会総会議事録

昭和45年10月15日 於原研 司会 関谷 主

議題

1. 前年度会計報告及び炉物理夏の学校についての報告
2. 今年度計画
3. 科研費総合研究について
4. その他

1. 桂木氏(原研)より前年度会計報告(炉物理の研究9号掲載)について説明がなされ承認された。  
 今夏原研で行われた炉物理夏の学校の経過(学会誌12巻9号参照)が報告された。

2. 関谷氏(阪大)より今年度の計画が説明された。  
 夏の学校について阪大では準備を引き受けかねているが、その理由は炉物理関係の人数が少いこと、及び寄付を募ることが大学の現状から問題になることであると説明され、科研費からの援助が要請された。  
 これに対し武田氏(東工大)より、科研費総合研究所の幹事会ではかかることの発言があった。

炉中性子委員会は明年3月で打ち切る。将来このようになるといわれるべきことと意見が出たとき、は別の名で満足する。

総会はいつも学会又は分科会の肩の休憩時間に行われてきたが、時間が短くなることの発言が古橋氏(東大)よりあった。

3. 武田氏(東工大)より、科研費総合研究所「将来炉をのぞいた炉物理の研究」が今年度より実現することについて経過が報告された。

詳しくは炉物理の研究9号を参照されたい。

4. その他

学会誌に関して編集委員飯島氏(NAIG)より次の発言があった。

学会誌掲載論文の引用度の調査をやるかどうか編集委員は決められなかったが、学力の点から不可能との結論に付いた。

総合研究 幹事会(才1回) 議事録リ

昭和45年11月7日 a.m. 10:30~15:00  
東京工業大学 原子炉工学研究所 会議室にて

出席者	武田栄一 (東工大)	柴田俊一 (京大炉)
	桂木 学 (原 研)	梶山 典 (東北大)
	西原英晃 (京大工研)	西原 宏 (京 大)
	玉河 元 (名古屋大)	関谷 全 (阪 大)
	黒田義輝 (東海大)	古橋 晃 (東 大)
	山室信弘 (東工大)	書記相塚乙彦 (東工大)

議題 本年度の負担  
活動  
報告書  
来年度科研費の申請  
夏の学校  
その他  
次回幹事会

<議事録>

1. 本年度の負担と活動についての参考資料として武田教授より原子炉の変遷に関する資料が配布され、説明が為された。その後色々と積極的な意見の交換があり、なか、例えば「将来炉のイメージは炉物理の将来は考えられない。」(武田)とか、「高速炉を将来炉と考えたくない。高速炉の中で将来炉を考えるべきである。」(安代理、古橋)とか、「高速炉を開発するにいう立場で機関別負担を行えばいい。」(桂木)とか、「中性子物理をやっていく上の将来炉というものが中層にある。」(関谷)とか、「今年度は問題集の選り出し、方向づけに留めておいてほしい。」(梶山)とか、「本年度は部分的に芽が出る程度でも構わない。」(武田)等である。

2. その後、グループ別に示かれて具体的な活動方針が検討された。その分相は次の通り。

高速炉	西原宏 (京大)	安成弘 (東大)	桂木学 (原研)
新型軽核炉	武田栄一 (東工大)	関谷全 (阪大)	柴田俊一 (京大炉)
	若林二郎 (京大研)	黒田義輝 (東海大)	

中性子物理 玉河元(名大) 楳山一興(東北大)

3. 来年4月の報告書在完成するに決定した。
4. 次に来年度科研費の申請については、多少名前を変えて申請するに決定した。
5. ス、炉物理夏の学校の援助について、これに関連して、学生の出張旅費の問題等色々と議論されたが、結論としては、幹事会の際の旅費より自発的に寄付をしてもらい、その中から夏の学校の運営にも側面的な援助を考慮するに決った。

# 會員名簿

○44年度幹事, □45年度幹事

(北大工)  
 □井上 和彦  
 小沢 保知  
 斎藤 慶一  
 斎藤 玲子  
 成田 正邦  
 仁柴 明人  
 (東北大)  
 稻忍 輝雄  
 神田 一隆  
 木村 一祐  
 根山 一典  
 高橋 文信  
 田中 洋司  
 中屋 重正  
 平川 直弘  
 本多 毅  
 三井 鞠  
 三村 泰  
 百田 光雄  
 鴨見 昇  
 (東大, 工)  
 ○安 成弘  
 今井 哲  
 内川 貞夫  
 菊池 元平  
 清瀬 量平  
 近藤 駿介  
 下野 史俊  
 末広 輔  
 関口 晃

都甲 泰正  
 永井 文夫  
 中沢 正治  
 原 文雄  
 ○古橋 晃  
 松井 一社務  
 柳沢 務  
 若林 宏明  
 (東大, 原子炉研)  
 相沢 乙彦  
 相原 永史  
 ○新井 栄一  
 和泉 啓  
 角谷 浩享  
 武田 栄一  
 山室 信弘  
 (東海大, 工)  
 今井 博  
 石田 正次  
 遠藤 政樹  
 大黒 健太郎  
 太田 雅啓  
 金井 栗次  
 ○黒田 義輝  
 香藤 正文  
 阪元 重康  
 武井 博明  
 豊田 道則  
 永頼 慎一郎  
 中井 昭三  
 山本 一清

(東海大, 福岡杯会)  
 砂子 克彦  
 (都立大, 理)  
 久世 寛信  
 (早大, 理工)  
 並木 美喜雄  
 (武蔵工大)  
 佐々木 修一  
 (城西大)  
 中山 隆  
 (立教大, 原研)  
 服部 学  
 (名大, 工)  
 伊藤 只行  
 加藤 敏郎  
 小林 晃  
 高木 寛一  
 仁科 浩二  
 (京大, 工)  
 鶴岡 正二  
 大田 正男  
 大谷 暢夫  
 小林 啓祐  
 関本 博  
 築城 詠  
 下 政晴  
 西原 東晃  
 西原 宏  
 兵藤 知典  
 堀江 秀太郎  
 森島 信弘

路次 守憲  
 和田 守啓  
 (京大, 工研)  
 中村 邦彦  
 楠城 力  
 星野 力  
 吉川 栄和  
 若林 二郎  
 (阪大, 工)  
 石黒 九州男  
 九鬼 隆彦  
 全  
 □関谷 徳雄  
 吹田 健二  
 ○住田 亮人  
 高橋 毅夫  
 □錦織 慶次  
 宮崎 留次郎  
 山岸 治  
 (近大)  
 堀部 良太  
 三木 良彦  
 水本 良彦  
 (京大炉)  
 宇津呂 雄彦  
 因田 守民  
 因本 朴  
 小野 光一  
 神田 啓治  
 ○木村 退郎  
 小林 推平  
 小林 圭二

布施 卓嘉 (電総研)  
 天野 文雄 (東京原子力産研)  
 西川 元文 (NAIG)  
 香木 克忠  
 飯島 俊吾  
 龜井 孝信  
 黒沢 丈夫  
 小松 一郎  
 清水 彰直  
 角山 茂章  
 野村 孜  
 深井 佑起  
 松野 義明  
 水田 宏  
 門田 一雄  
 山本 宗也  
 (日立, 中研)  
 伊東 新一  
 大西 忠博  
 川合 敏雄  
 栗原 国寿  
 小西 俊雄  
 駒田 正典  
 三田 敏男  
 瑞慶賢 篤  
 武田 征一  
 竹田 鍊三  
 芳賀 暢  
 藤野 充平  
 松岡 謙一  
 山本 正昭

立花 昭  
 (住友原子力)  
 福田 連  
 松延 左幸  
 (電中研)  
 恩地 健雄  
 (電総)  
 大塚 益右  
 平田 昭  
 (東京電力)  
 北野 昭彦  
 (東京)  
 牧野 格次  
 吉岡 律夫  
 (古河電工)  
 古田 敏郎  
 (三井造船)  
 八谷 雅典  
 (三菱原子力)  
 伊豫 徳保  
 岩城 利夫  
 小倉 美成  
 小林 隆俊  
 近藤 隆夫  
 沢田 隆  
 菅原 彬  
 中野 靖士  
 年田 公彦  
 坂田 久志  
 迎 渡海 正弘  
 (船研) 親衛  
 伊能 功  
 片岡 巖

正雄  
 徹  
 実徳  
 実称  
 悠  
 洋  
 祥次郎  
 駿一  
 靖彦  
 武彦  
 一彦  
 敬  
 誠  
 精  
 彰  
 雄  
 翠  
 久  
 二  
 治  
 夫  
 精  
 一  
 三  
 七  
 (重工)  
 介  
 久  
 信  
 太郎  
 亮  
 司

口能 沢 平 田 弘 古 前 松 宮 宮 向 森 安 飯 岩 植 大 小 坂 志 野 東 宮 村 望 湯 若 川 坂 田 田 長 武

(勸燃事業団)

司 俊一 浩 良 脩 正 薰 高 修 憲 彬 仁 寛 宏 俊 峯 義 博 頼 男 透 岩 育 暉 泰 吉 通 夫 幸 雅 宏 雄

佐藤 茶谷 中林 藤田 松山 米田 九片 飯石 石塚 一守 葛西 桂木 金子 藤 後 小早 小林 近杉 関 田 鶴富 中 中 西

(原研)

藤田 谷 込 林 田 本 田 大 瀨 泉 川 塚 守 西 木 子 藤 藤 川 林 藤 次 田 富 中 中 西

口和嶋 常隆  
 (日立造船)  
 小林 徹二  
 山田 毅  
 (富士電機)  
 中村 久

(住友電工)  
 川本 忠雄  
 福光 良雄  
 (関西電力)  
 横牛 光洋  
 (北陸電力)

奈賀 靖和  
 西村 尚和  
 (大阪通産局)  
 岩本 靖  
 (川口工業高校)  
 森 洋介

(日本揮発油)  
 上野 茂樹  
 (岩田木材工業)  
 田本 毅  
 (日本昭和石工)  
 清水 康一  
 (合計 239名)

## 炉物理連絡会の概要

1. 趣 意 原子力研究の最近の進歩は誠に目ざましいものがあり、本学会の責任もますます大きくなってきた。また、とくに原子力研究においては、諸外国との交流がきわめて重要なものとなってきた。このような情勢に対処するためには、まず、国内における研究者間の十分な情報交換や連絡・調整が大切である。この点については、従来わが国の原子力研究体制の進展があまりに急であったため、必ずしも適当な現状にあるとはいえない。かねて炉物理関係研究者の間において、約2年前より4回にわたる“炉物理研究国内体制のインフォーマルミーティング”を初め、いろいろの機会をとらえて、意見の交換が重ねられた結果、本学会内に常置的な組織を設け、その活動を通じてこれらの問題を解決して行くべきであるという方針により、この連絡会が設置された。

2. 事 業 国内における炉物理研究者間の相互連絡、調整の役割りを果たすため、年間約6回連絡会報として、「炉物理」(B5判オフセット印刷20~30頁)を編集刊行する。「炉物理」はオリジナルペーパーの前段階としての報告・発表、検出器・試験装置など研究に関する情報交換、研究を進める上で必要な各種の意見発表および討論等を活発に行うためのもので、さらに、関連するニュースを

も含ませ、また諸外国からのインフォメーションも伝わるように努める。また、春秋に総会を開催し、討論会・夏の学校なども計画して、学会行事として実施する。

3. 対 象 対象とする専門分野の範囲は、つぎのとおり。

- ① 原子力の基礎としての核物理
- ② “ 中性子物理
- ③ 原子炉理論
- ④ “ 実験
- ⑤ “ 核計算 (Burnup Physics を含む)
- ⑥ “ 動特性
- ⑦ 原子炉遮蔽
- ⑧ 関連する計測
- ⑨ その他の関連分野  
(たとえば、エネルギー変換の基礎反応)

4. 運 営 理事1名のほか、企画・編集両委員より各2~3名および加入会員より選出した幹事若干名により運営する。(43年度・京大炉・44年度・原研が当番幹事)

5. 連絡会員 本連絡会に加入する本会会員は、氏名・専門分野・所属・連絡先を明記して書面で事務局へ申込み、連絡会費600円、500円)を前金で納付する。なお、前金切れと同時に失格する。